



熊本の小学生との種まき作業

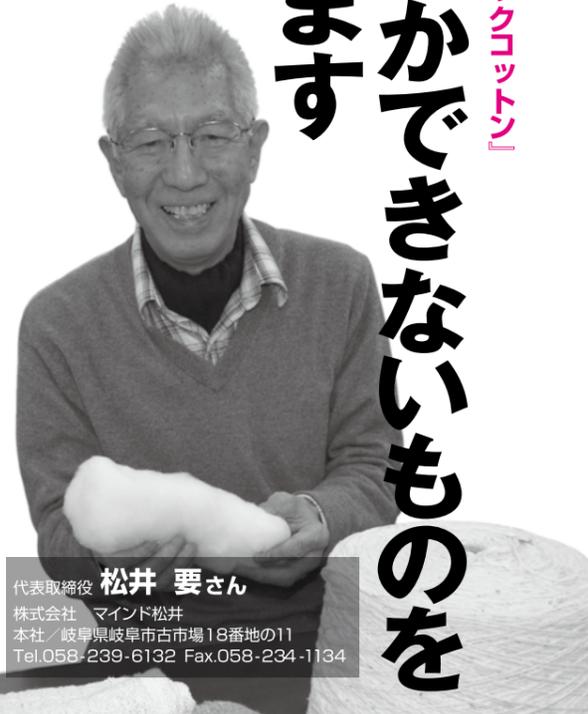
熊本須恵工場社屋

ベビーシューズ

収穫された綿花

日本で唯一の一貫生産「オーガニックコットン」
 「日本」でしかできなないものを
 作り続けます

今や日本のアパレル業界を支えていると
 もいえるのが安価、低コストの海外下請け
 工場。そのなかで、綿花の栽培から縫製ま
 で全ての工程を100%「メイドインジャバ
 ン」で行っている、日本で唯一のオーガニ
 ックコットン製品の「一貫生産」に生き残りを
 賭けた企業が、岐阜にありませぬ。



代表取締役 松井 要さん
 株式会社 マインド松井
 本社 / 岐阜県岐阜市古市場18番地の11
 Tel.058-239-6132 Fax.058-234-1134

「(株)マインド松井。社長の松井さんがとことん目指すのが「質」。それが「メイドインジャパン」へのこだわり。」

オーガニックコットンとは、有機栽培、無農薬の畑で作られた綿花のこと。栽培に使われる農薬・肥料については厳格な基準があり、紡績、織布、ニット、染色加工、縫製などの製造工程を経て、最終製品となります。この製造全工程を通じて、化学薬品による環境負荷を最小限に減らして製造されたものが、オーガニックコットン製品となります。

マインド松井では、その工程の全てを100%自社で、日本国内で行っています。

「日本中を探しても、他にやっているところはないはずですよ。」

と、自信を持つ松井さん。

しかし、なぜこれほどまでにこだわるのか。

下請けだけでは生き残れない

想いは「オーガニックコットン」に賭ける日々となつたのです。それが6年前のことでした。

「本物の日本製」でなければ…

しかし、綿花を日本で工業的に栽培しているところはほとんどなく「オーガニックコットン製品」として販売している大手のメーカーが折角日本で栽培された綿と海外で生産された綿を混ぜて使用しているのが現状だということがわかりました。

「綿花の有機栽培の安全基準は国ごとに違う…」

松井さんは、納得することができませんでした。「せっかく無農薬で栽培された綿が、他と混ぜてしまつたら、ほんとうに100%安心・安全でも人にも環境にも優しいものにはならない…」と。

「だったら綿花から全部うちで作ろう！自分たちの手で」

これが、松井さんのこだわる「100%メイドインジャパン」への道の第一歩でした。

世界に誇れる技術が、うちにはある

マインド松井は、パリ・コレクション出品作品を手掛けたこともある程の縫製技術を持ち、慣れない作業でも職人の腕はそれに負けることはありませんでした。しかし、熊本工場の周辺に従業員の畑などを借りて試行錯誤しながらはじめた完全無農薬の綿花の栽培は、そのすべてが手探り。並大抵の努力ではありませぬでした。

「絶対出来るはず、自信を持つとう」

まさに全従業員の、全精力を挙げての取り組みにより、完全無農薬の綿の収穫が出来るようになりま

松井さんが岐阜市の基幹産業である繊維業界に携わったのは18歳の時。23歳で独立し婦人服を中心とした大手メーカーのいわゆる下請け工場として岐阜と熊本に工場を持ち、80人の社員とともに働き続ける日々でした。

しかし、バブル崩壊後は日本のメーカーの多くが下請けを海外へとシフト。マインド松井も他に漏れず仕事が激減。「従業員を路頭に迷わせてはいけません」と、松井さんの苦悩の日々が続きました。

そんなある時、目の病氣「黄斑上膜」で眼科に入院し、手術をされた松井さん。しかし、そこで運命の出会いがありました。

「その方は、重度のアトピーの為に、網膜剥離の手術を何度もしなければならず、入院を繰り返して、身体に優しい素材のパジャマが手に入らないと大変困っていました」

その時、松井さんは決意しました。

こういった悩みの方は世の中に多いはず。こういった悩みを解決しよう！」

この日から、松井さんの他との差別化を模索する

「努力を続けてよかった」

感動の瞬間でした。

そして、試作品が出来、徐々に徐々に、松井さんの手掛ける製品への評判は広まり出し、ついに今年になり、製品全部をうちで買い取りたいという企業も出て来ました。

現在、従業員12人となった熊本工場は外注工場の協力を得てフル回転しています。

熊本の工場周辺での綿花の栽培には、地元の小学生や高校生、老人会も関わって町おこしにも一役かっています。また高齢者や障害者施設支援にも積極的に力を注いでいます。工場を進出させて25年が経ち、やっと「熊本に文字通り根が張れたかな」との松井さんの想いがそこにあります。

更に今年度からは、昔から漢方薬やムラサキ染の原料となる「紫根」の栽培を始めています。

「今後は、是非岐阜でも綿花と紫根の栽培を、地域と一緒に進めていきたいです」

松井要さん、69歳。

松井さんが世界に誇る、安心・安全のオーガニック綿花。その広大な畑が、いつか岐阜の地で広がり、全てが「メイドイン・ギフ」となる日も、それほど遠くはないかもしれません。



「ガラ紡」で織る

「紡がれる糸に手紡ぎに近い素朴な風合いがあるんです」
 1876年に考案された現在生産されていない「ガラ紡機」で織られた布には、機械化された大量生産ではできない柔らかさがあります。